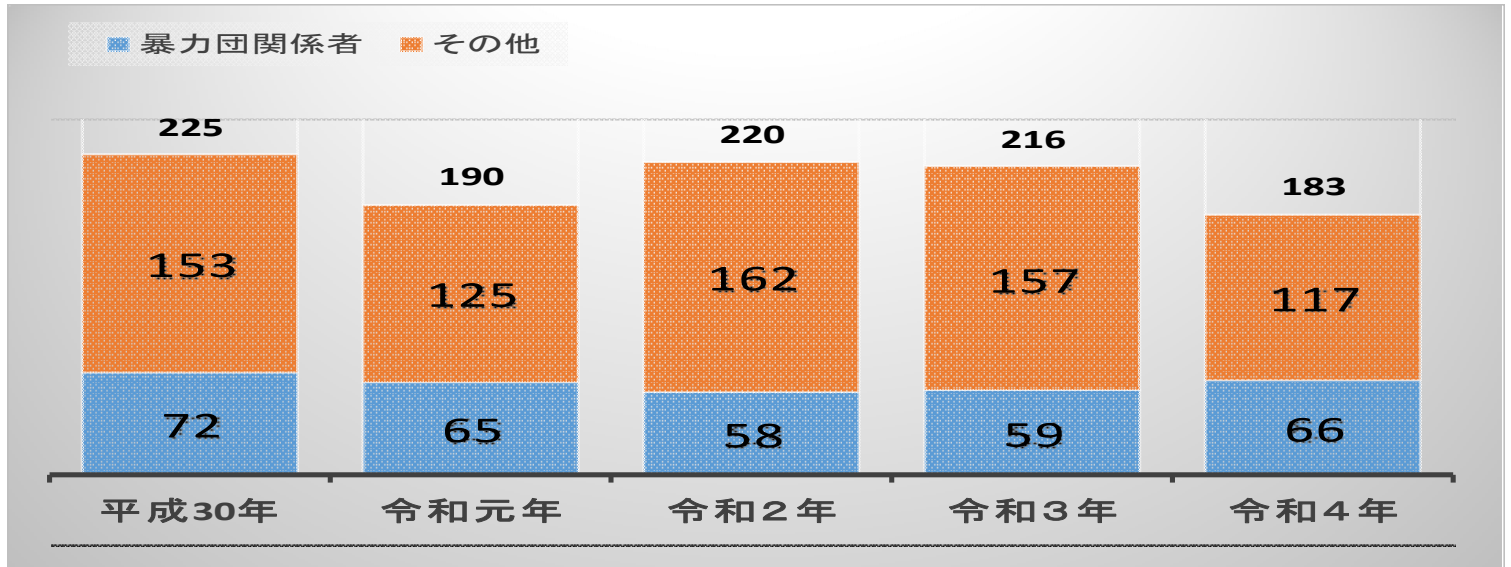


# 県内の薬物情勢

## 薬物検挙人員の推移



- 奈良県における薬物事犯の検挙人員は、ここ数年は200人前後で推移しています。
- 令和4年中の薬物事犯の検挙人員は、183人（前年比-33人）であり、男女別では、男性が163人、女性が20人となっています。

## 令和4年中の薬物事犯検挙状況

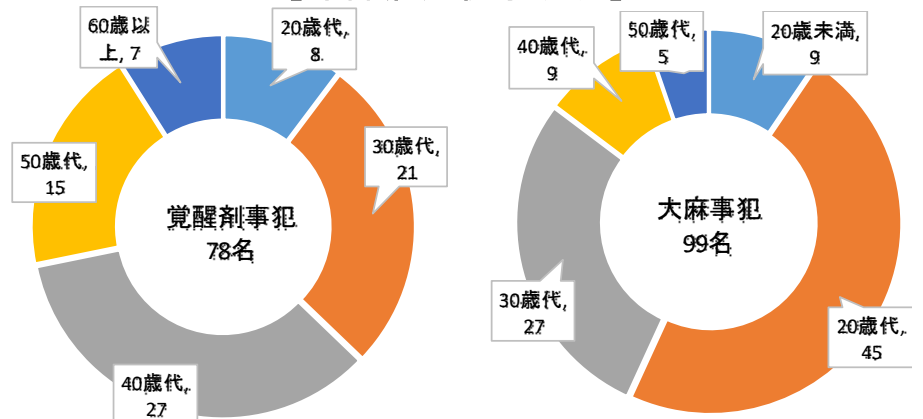
### 【罪名別検挙状況】

覚醒剤取締法違反	78人
大麻取締法違反	99人
その他	5人

### 【主な薬物押収量】

覚醒剤	約 36 g
乾燥大麻	約 4,800g
大麻草	103本
液体大麻	約 6 g

### 【年齢層別検挙状況】



- 統計開始から令和4年に初めて大麻事犯が覚醒剤事犯を上回りました。
- 覚醒剤事犯は40歳代が最も多く、30歳代と40歳代で全体の約6割を占めています。
- 大麻事犯は20歳代が最も多く、10歳、20歳代で半数を超えています。
- その他、錠剤覚醒剤やLSD、コカイン、覚醒剤とコカインの混合薬物等を押収しており、違法薬物が多種・多様化しています。

大麻は薬物乱用のきっかけとなる「ゲートウェー・ドラッグ」とされ、若者を中心に乱用が社会問題となっています。

「1度だけ」という好奇心や遊びのつもりでも、薬物の依存症によって、自分の意思ではやめることができなくなります。